

令和4年度 猪名川町立小学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立小学校5年生の児童 282名
- 調査対象教科は、国語・算数

■ 調査日

2022年4月19日（火）

■ 調査結果

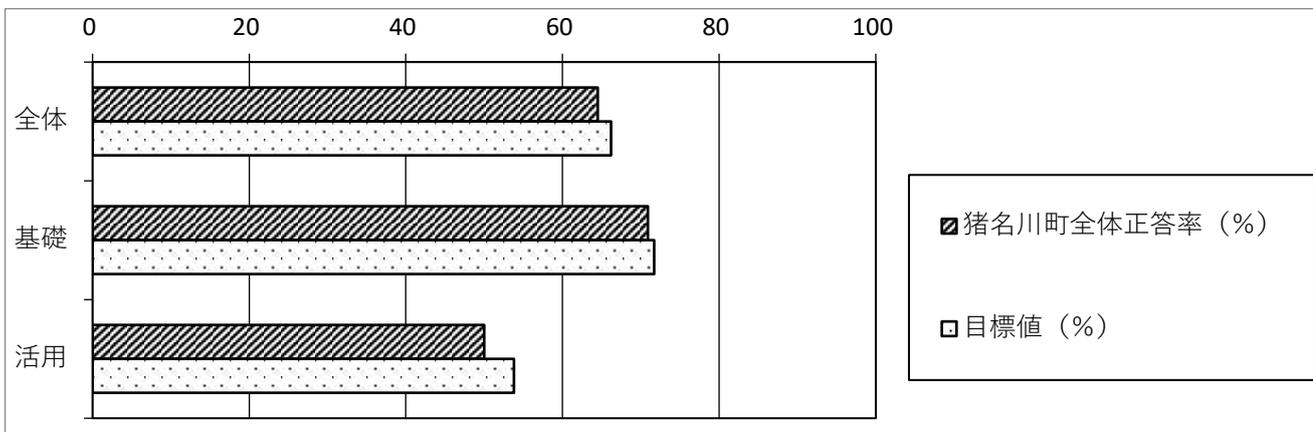
【小学校の調査結果】

		猪名川町全体 正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差	全国平均 正答率 (%)	全国との差
小学校・ 5年生	国語	64.5	66.2	▲1.7	68.0	▲3.5
	算数	57.7	63.6	▲5.9	60.4	▲2.7

※「目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

■小学校5年生 国語
 (1) 基礎・活用正答率

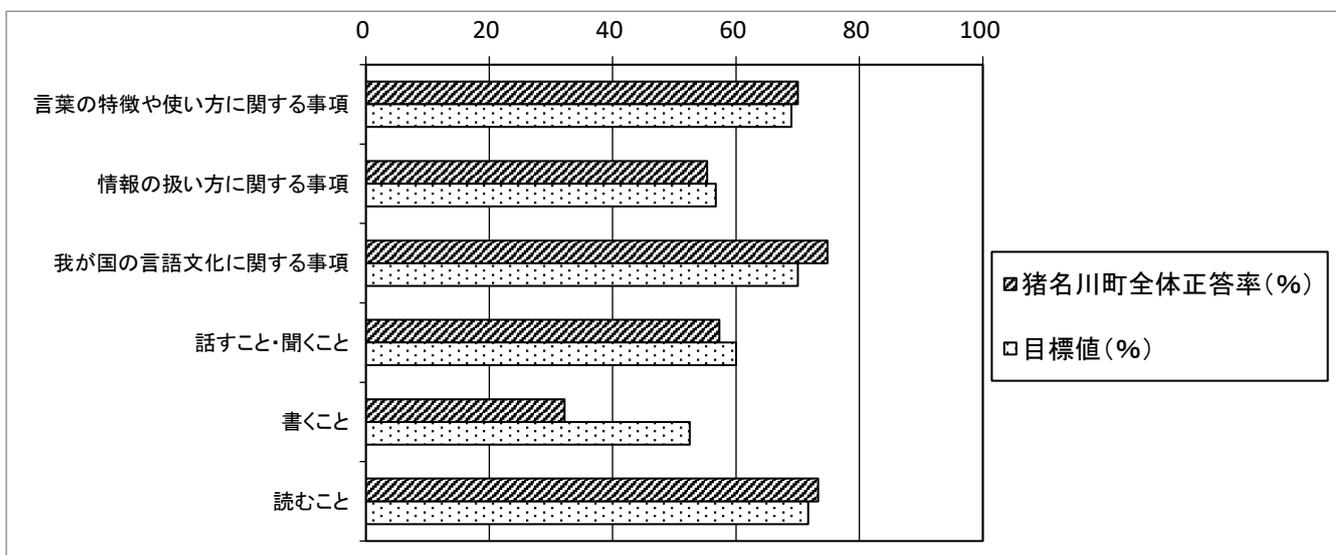
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	64.5	70.9	50.0
目標値 (%)	66.2	71.7	53.8
目標値との差	▲ 1.7	▲ 0.8	▲ 3.8



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は70.9%と目標値を0.8ポイント下回り、活用問題は50.0%と目標値を3.8ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
猪名川町全体正答率 (%)	70.0	55.3	74.8	57.3	32.2	73.3
目標値 (%)	69.0	56.7	70.0	60.0	52.5	71.7
目標値との差	1.0	▲ 1.4	4.8	▲ 2.7	▲ 20.3	1.6

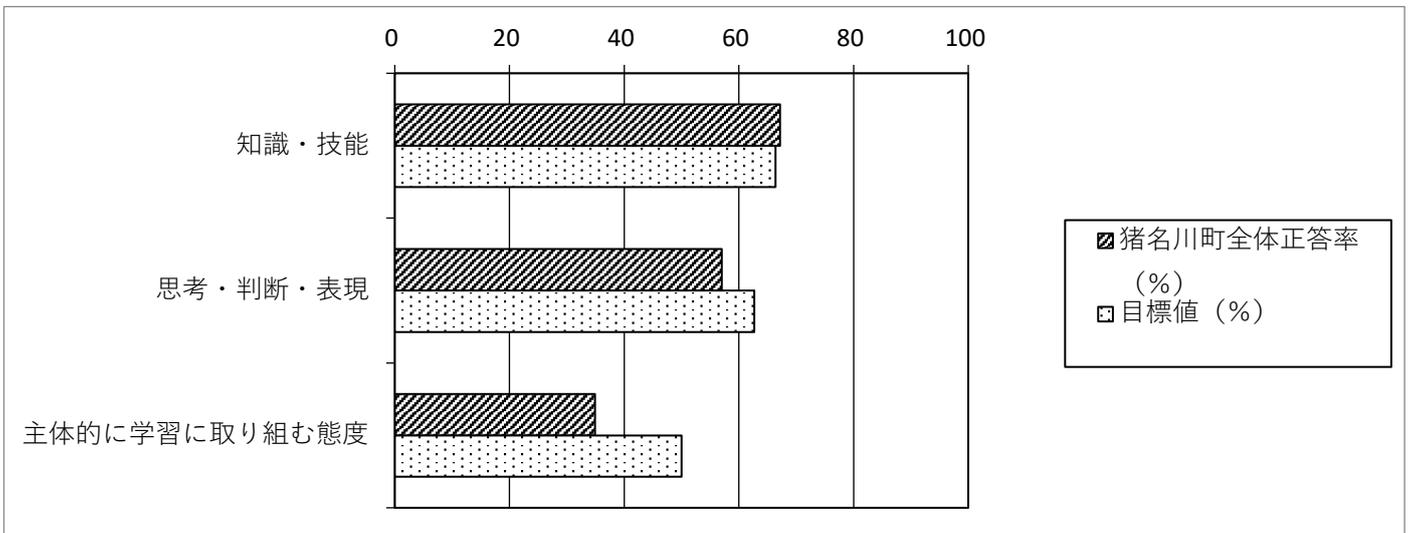


●領域別に見ると、「書くこと」が目標値を20.3ポイント下回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

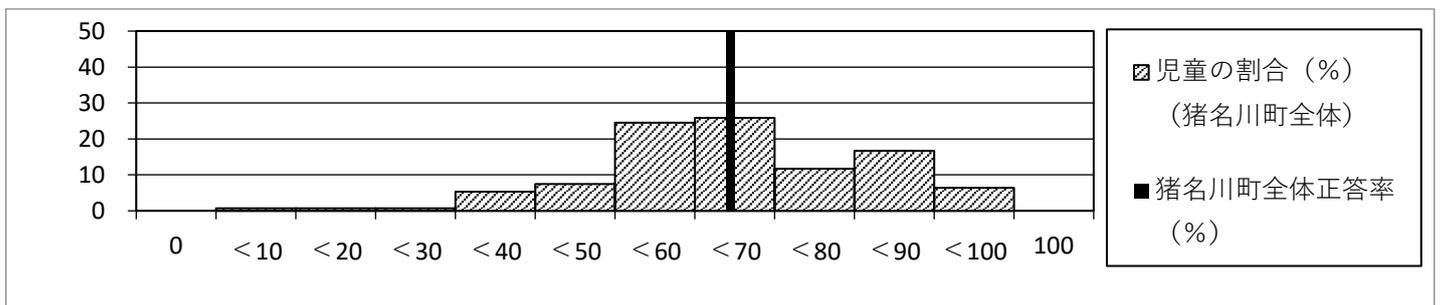
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	67.2	57.0	34.9
目標値 (%)	66.4	62.7	50.0
目標値との差	0.8	▲ 5.7	▲ 15.1



●観点別に見ると「知識・技能」は目標値より0.8ポイント上回っているが、「思考・判断力・表現」は5.7ポイント「主体的に学習に取り組む態度」は15.1ポイント目標値を下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
児童の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.7	0.7	0.7	5.3	7.4	24.5	25.9	11.7	16.7	6.4	0.0



●町全体で正答率80%以上の生徒が23.0%と令和3年度の17.0%から増加している。正答率50%未満の生徒は14.9%と令和3年度の26.5%より大幅に改善している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問3(2)

【言葉の学習】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	16.0	40.0	▲ 24.0	20.7	▲ 4.7
出題のねらい	連用修飾語について理解している。				
対策	どの言葉がどの言葉を詳しく説明しているのかという文の構成について理解することは、文章を書いたり、文章の内容を正しく読み取ったりするために必要である。視覚的に分かりやすい、言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構成を理解させることが大切である。また、簡単な文の空欄に、さまざまな修飾語を入れる練習を積ませることも有効である。				

大問4(1)

【物語の内ようを読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	41.8	60.0	▲ 18.2	50.7	▲ 8.9
出題のねらい	登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。				
対策	文学的な文章において、文章の叙述を基に、登場人物の行動や気持ちなどを捉えることは、基本となる読み方の一つである。本問では、設問部の直前の部分と直後の一文を丁寧に読み取る必要がある。長い文章であっても、それぞれの場面で登場人物がどのような行動をとっているのか、また、それらの行動の背景にある気持ちはどのようなものであるのかを、きちんと読み取れるようにしておきたい。				

大問6(1)

【調査の結果をもとに話し合う】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	29.4	40.0	▲ 10.6	36.1	▲ 6.7
出題のねらい	情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。				
対策	話し合いでは、その目的を明確にすることと、話の流れを捉えながら参加することを常に意識することが重要である。本問では、司会者が本に興味をもってもらう方法を質問したのに対して、「村上さん」がお薦めの本を紹介することを提案している。「中山さん」はそれを受け形で、【調査の結果】の「しつ問3」の情報を根拠として挙げ、それを基に話している。ここでは単独で「学校図書館で見つけた」という答えの数値を上回るデータがないため、「すすめられた」というくくりで比較しなければならないことに気付かせたい。				

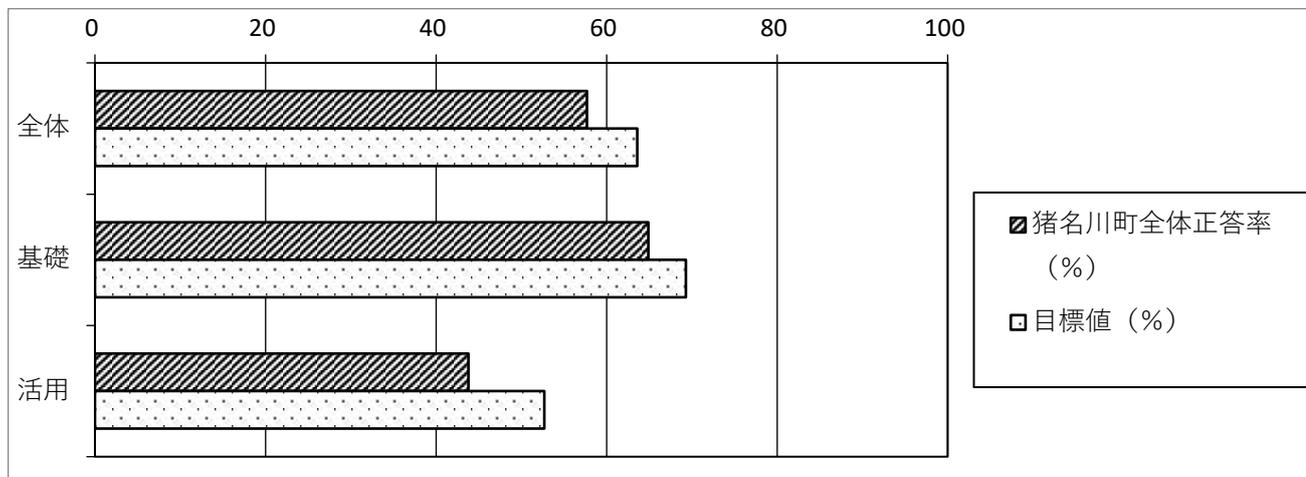
大問7

【文章を書く】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	38.7	65.0	▲ 26.3	52.5	▲ 13.8
出題のねらい	指定された長さで文章を書いている。				
対策	ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くかという見通しをもつことが必要になる。本問では、〈注意する点〉がそうしたヒントにもなっている。これを参考にすることで、第一段落と第二段落に何を書かなくてはならないかが分かる。また、児童にとって、書くことの学習で難しいことの一つに、文章の書き出しが挙げられる。問題文にある文言を使えば、書き出しが簡単にできることを、繰り返し指導して習得させたい。				

■小学校5年生 算数
 (1) 基礎・活用正答率

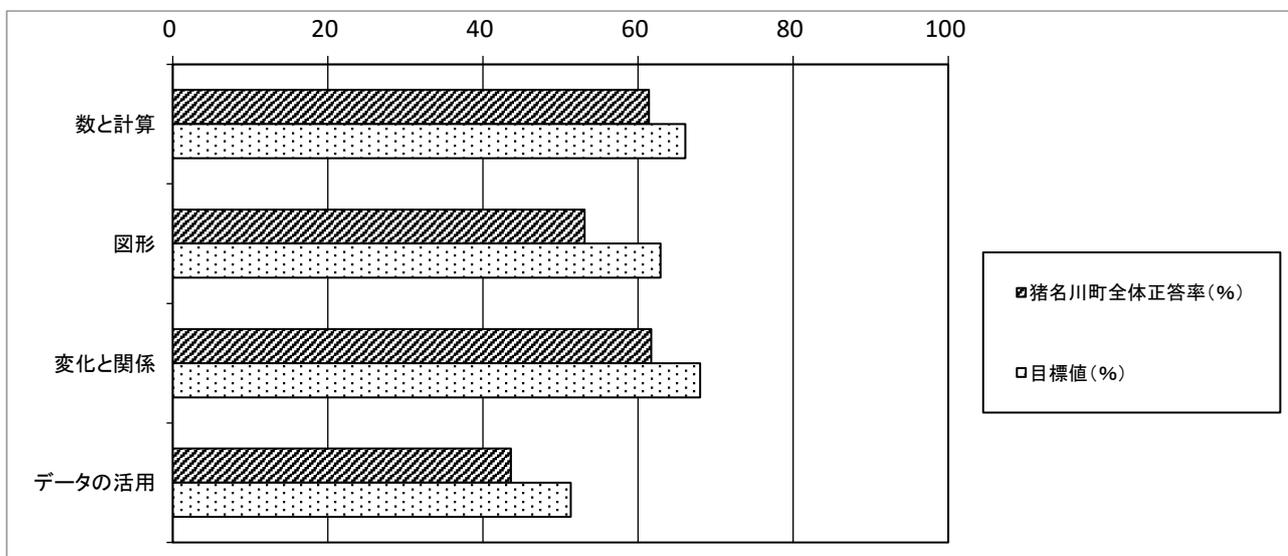
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	57.7	64.9	43.8
目標値 (%)	63.6	69.3	52.7
目標値との差	▲ 5.9	▲ 4.4	▲ 8.9



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は64.9%と目標値を4.4ポイント下回り、活用問題は43.8%と目標値を8.9ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
猪名川町全体正答率 (%)	61.4	53.1	61.7	43.6
目標値 (%)	66.1	62.9	68.0	51.3
目標値との差	▲ 4.7	▲ 9.8	▲ 6.3	▲ 7.7

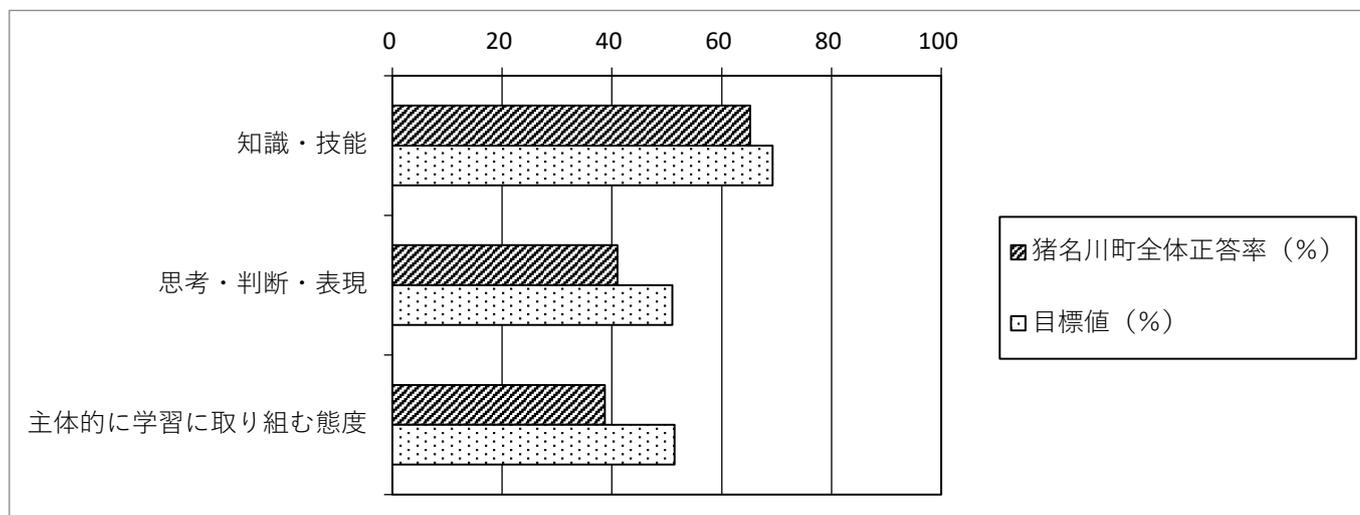


●領域別に見ると、すべての項目が目標値を下回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

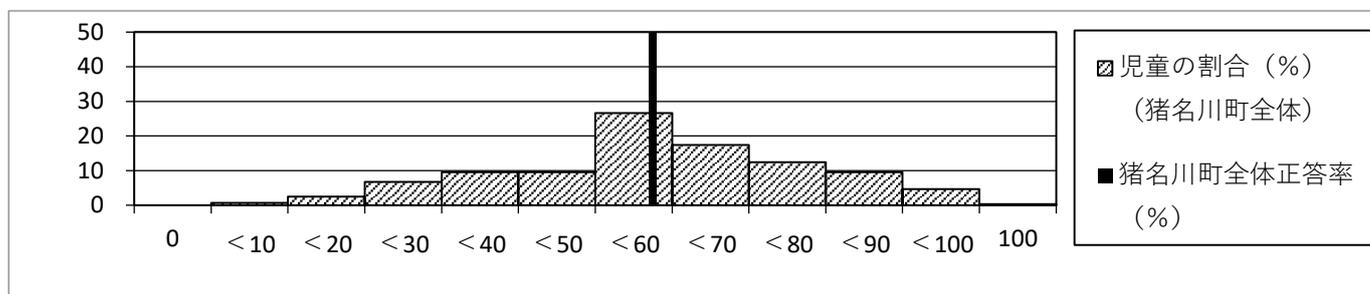
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	65.2	41.0	38.7
目標値 (%)	69.3	51.0	51.4
目標値との差	▲ 4.1	▲ 10.0	▲ 12.7



●観点別に見ると「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」すべての項目で目標値を下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
児童の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.7	2.5	6.7	9.6	9.6	26.6	17.4	12.4	9.6	4.6	0.4



●町全体で正答率80%以上の生徒が14.5%と令和3年度の18.9%より減少し、正答率50%未満の生徒は29.1%と令和3年度の28.7%より上回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問9(2)

【わり算・計算のきまり】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	39.4	55.0	▲ 15.6	45.9	▲ 6.5
出題のねらい	分配法則を理解している。				
対策	空欄に当てはまる式を選択させることにより、分配法則を用いた計算の仕方の理解を問う問題である。分配法則の意味については、長方形の面積を求めるなどの具体的な事象における考察を通して、しっかりと理解させたい。また、分配法則を使うことで、速く、簡単に、正確に計算できるよさを、具体的な計算を行う中で計算過程を比較させることにより、実感させることが大切である。				

大問14

【いろいろな形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	33.3	65.0	▲ 31.7	53.7	▲ 20.4
出題のねらい	平行四辺形の作図ができる。				
対策	平行四辺形は、1組の三角定規と分度器で作図する方法と、コンパスとものさしで作図する方法がある。前者は、平行四辺形が向かい合った2組の辺が平行であることを踏まえた作図方法で、後者は、平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいことを踏まえた作図方法である。このように、平行四辺形の意味や性質の何を利用するかで、作図の方法は多様にある。どの性質を利用して作図しようとしているのか、根拠をもって作図できるようにすることが大切である。				

大問17(1)

【折れ線グラフと表】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	8.5	30.0	▲ 21.5	14.6	▲ 6.1
出題のねらい	図書室を、先週利用した人数と、今週利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を示し、その求め方を説明している。				
対策	本問のようにデータを二次元表にまとめて2つの観点から見ると、4つの場合が考えられる。このように、2つの観点から物事を分類整理したり、起こり得る場合を調べたり、落ちや重なりがないように考えたりできるようにすることが大切である。その際、合計欄も含めて9つの欄それぞれの数が何を表しているのかを、元のデータと比較しながら理解できるように指導していきたい。				

大問18(2)

【小数】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	41.5	55.0	▲ 13.5	50.0	▲ 8.5
出題のねらい	乗法の性質を理解している。				
対策	0.1を基にして考えると、 0.2×6 の計算は 2×6 という整数のかけ算で表すことができる。この見方を乗法の性質から説明しているのが、やまとさんである。0.2を10倍して 2×6 の計算をし、この積を10分の1することで、 0.2×6 の積が求められる。この乗法の性質は、第5学年の小数どうしのかけ算で活用するので、この小数×整数の段階で十分に理解できるように指導することが大切である。				